

# 事業報告書

事業年度

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

法人名 公益社団法人心の里親会・奨学会

# 公益社団法人心の里親会・奨学会事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

## 公 1 児童養護施設で生活する児童への支援

### 1 文通事業

児童養護施設で生活する子どもたちを励ます目的で、札幌市及びその近隣市町村に所在する児童養護施設の子どもたちと文通し、実施に当たり必要な研修を次のとおり行なった。

ア) 文通を希望する子どもたちと平均、一ヶ月一回の割合で文通した。

文通した子どもと会員は共に 12 カ月で約 1,007 人であった。

平成 26 年度中に、新たに 13 組の子どもと会員が文通を始め、卒業や退所等により 9 組が文通を終了した。

イ) 文通した児童養護施設は次のとおり。

札幌南藻園、興正学園、羊ヶ丘養護園、柏葉荘、ふくじゅ園、  
天使の園、櫻ヶ丘学園

※ 平成 27 年 3 月 31 日現在の文通児童数 83 人

※ 平成 27 年 3 月 31 日現在の文通会員数 72 人

ウ) 第 39 回文通会員のつどいを次のとおり開催した。

文通の現状について話し合い、学ぶため、「第 39 回文通会員のつどい」を、平成 26 年 8 月 26 日、札幌サンプラザで開催した。会員 54 人、児童養護施設の代表 11 人が参加し、文通の現状や改善について話しあった。

会員代表（7 人）と施設代表（7 人）とが総括発表を行って成果を分かち合い、その要旨を「心の里親しんぶん第 220 号」に掲載した。

### 2 施設訪問事業

文通している児童養護施設が主催する行事に参加し、子どもたちとの交流を通じその育成に寄与するため行った主な「施設訪問」と会員参加人数は次のとおり。

(1) 4 月 20 日	興正学園	「新入学を祝う会」	10 人
(2) 7 月 19 日	櫻ヶ丘学園	「交流会」	46 人
(3) 9 月 6 日	柏葉荘	「園祭」	10 人
(4) 9 月 13 日	ふくじゅ園	「園祭」	15 人
(5) 9 月 13 日	羊ヶ丘養護園	「園祭」	8 人
(6) 9 月 21 日	札幌南藻園	「園祭」	8 人
(7) 9 月 23 日	天使の園	「エンゼル祭」	13 人

(8)	9月28日	興正学園	「園祭」	31人
(9)	10月18日	ふくじゅ園	「交流会」	11人
(10)	11月23日	天使の園	「交流会」	15人
(11)	12月13日	興正学園	「生活発表会」	23人
(12)	12月19日	柏葉荘	「クリスマス寄贈」	4人
(13)	12月23日	ふくじゅ園	「キャンドル礼拝」	11人
(14)	12月23日	札幌南藻園	「クリスマス会」	3人
(15)	3月14日	札幌南藻園	「卒園を祝う会」	3人
(16)	3月21日	天使の園	「卒園式・退園式」	12人
				合計 16回、223人

### 3 家庭実習事業

文通している子どもが会員宅にホームステイし家庭実習をする事業について、平成26年度は文通会員宅に文通児童が宿泊する家庭実習はなかった。

夏季休暇中に、小学生が次のとおり会員宅でお泊り会を行った。

- 8月8日、9日 ふくじゅ園 6人の児童、先生2人、会員12人が参加
- 8月12日、13日 興正学園 8人の児童 先生3人、会員8人が参加
- 内容は、レクレーション・食事会・絵手紙研修など

### 4 第53回新しい出発を励ます会事業

文通から始まる当法人の支援活動は、奨学金給与や施設訪問活動等を行い、高等学校卒業で終了する。高等学校等を卒業し、文通している児童養護施設から就職・進学し、新しい出発をする子ども（卒業の日まで、この法人の奨学生であった者）を対象に、毎年2月「新しい出発を励ます会」を開催し、児童のこれまでの苦勞と努力を讃え、門出を祝福・激励する。

ア)平成27年2月21日、札幌サンプラザでこの会を開催した。卒業生21人と会員等79人が参加。来賓の励ましの言葉、卒業生と文通していた会員との交流等のプログラムが和やかに行われ、卒業生が今後の決意と当法人に対し謝辞を述べた。

#### イ) 生活必需品寄贈

卒業生21人に、新生活を始めるに当たり必要な品物を、当法人と、企業から支援して戴いた品物を寄贈した。(ストッキング、靴下、マグカップ、歯磨きセット等)

札幌南藻園4人、羊ヶ丘養護園1人、柏葉荘4人、

ふくじゅ園4人、天使の園3人、櫻ヶ丘学園5人、

#### ウ) 卒業支度金給与

卒業生21人に、1人につき3万円を給与した。

## 5 小学校入学祝寄贈事業

当法人は、毎年4月、文通している児童養護施設の小学校入学児童に、通学に必要な品物を寄贈する。平成26年度は新入学児童に、3月4日、次のとおり寄贈した。

- ア) 寄贈品 通学用の靴、筆入れ、鉛筆、消しゴム、靴下、  
イ) 寄贈先 札幌南藻園3人、興正学園4人、羊ヶ丘養護園3人、  
柏葉荘5人、ふくじゅ園1人、天使の園6人、 合計22人

## 6 クリスマスプレゼント寄贈事業

当法人は、毎年クリスマスの頃、文通している児童養護施設の子どもたちに、日常必要な品物を寄贈する。平成26年度は、10月末、児童養護施設が必要としている品物を調査し、1施設につき3万円の予算で次のとおり寄贈した。

- 札幌南藻園（文具、DVD）、興正学園（女子防寒コート、ブーツ）、  
羊ヶ丘養護園（ボードゲーム）、柏葉荘（ゲームソフト、けん玉、幼児玩具）  
ふくじゅ園（電池式LEDランタン）、天使の園（ボール、DVD、縄跳びの縄、等）、  
櫻ヶ丘学園（ソリ、スコップ）

## 7 展覧会事業

この事業は、文通している児童養護施設の子どもたちの作品展を応募により行う。子どもたちが作品を制作し、作文を書きながら考えることにより、自身の資質を伸ばすことを期待する。また、展覧会で、大勢の方に子どもの作品を鑑賞して頂き、児童福祉や子どもの教育について、改めて考えて頂く機会になることを期待し開催する。平成26年度は次のとおり行なった。

### ア) 募集と応募

平成26年8月、文通している児童養護施設に対し、「第52回絵画展及び第39回書道展並びに第33回作文コンクール」の開催及び応募方法を知らせ、多数の力作が寄せられた(9月26日)。

- ①絵画展 札幌南藻園4人、興正学園14人、羊ヶ丘養護園9人、  
柏葉荘10人、ふくじゅ園10人、天使の園10人、  
櫻ヶ丘学園13人 合計 70人
- ②書道展 札幌南藻園2人、興正学園5人、羊ヶ丘養護園5人、  
柏葉荘3人、ふくじゅ園5人、天使の園5人、櫻ヶ丘学園6人  
合計 31人
- ③作文コンクール  
興正学園1人、羊ヶ丘養護園1人、柏葉荘1人、ふくじゅ園1人、  
櫻ヶ丘学園5人、 合計 9人

イ) 審査会を開催、応募作品の中から優秀作品を選考した。

①絵画展 平成26年10月7日、審査を角力山旭氏にお願いし、北海道知事賞ほか23点の優秀作品を選考した。

②書道展 平成26年10月8日、審査を大上凌胡氏にお願いし、北海道知事賞ほか12点の優秀作品を選考した。

③作文コンクール 審査を朝倉賢氏にお願いし、心の里親会・奨学会長賞ほか5点の優秀作品を選考した。

選考理由を、「表彰式」で講評、「心の里親しんぶん第220号」に掲載した。

ウ) 「絵画」及び「書」の展覧会を開催した。

①平成26年10月27日から29日 北海道庁1階で(入賞作品のみ)

②平成26年11月1日から6日 札幌市地下街オーロラタウンで(全作品)

展覧会開催を通じ、多数の方から、当法人の活動や児童養護施設についての質問があった。

エ) 表彰式開催

入賞作品の表彰式を、11月15日(土)、札幌サンプラザで開催した。

この事業の後援者及び当法人代表者が、入賞した子どもたち一人一人に、賞状と楯を授与した。表彰式出席人数は112人、喜びを皆で分かちあった。

なお、応募した子どもたち全員に、この事業の協賛企業と当法人が参加賞を贈った。

## 8 広報事業

ア) 心の里親しんぶん発行

当法人は、会員と当法人の支援者に活動状況を報告すると共に、関係者以外にも児童福祉問題の推進に資する目的で、年2回「心の里親しんぶん」を発行している。

平成26年度は、219号(7月15日)、220号(1月31日)を、各号1,300部ずつ発行し、配付した。この活動に関わった延人数は90人延時間185.5時間。

イ) ホームページ

ホームページを更新し、当法人の活動状況の広報、情報公開を行った。

平成26年7月 <http://satooyasyougakukai.net/>

## 9 心の里親フェア開催事業

当法人が児童養護施設を対象に展開している活動を広く知らせ、支援をお願いする目的で、次の事業を行なった。

9月20日、午前11時から午後2時30分まで札幌市民ホールで開催。

販売会場や展示会場の他喫茶室やお茶席を設け、

当法人の活動状況の展示や説明等広報活動、活動資金を集めるためのバザー開催、

その他、喫茶室での交流などを行った。この事業を行うに当たり関わった人数は246

人、要した時間は1,647時間、開催日当日は会員78人が活動し、来場者は100人。

## 10 活動報告会事業

平成27年1月16日、札幌サンプラザで、当法人の支援者及び当法人の活動に関心がある一般の方たちを対象にこの事業を行った。当日、95人が参加し、当法人から平成26年に行った活動について、「事務局」・「苗穂支部」・「幌北支部」の3者が、それぞれ報告した。報告会に引き続き交流会を開催した。

## 11 奨学金給与事業

当法人は、文通している児童養護施設で生活し、高等学校等で修学する子どもたちに、奨学金を給与している。これは、子どもたちが、修学に際して負う経済的負担を軽減し、勉強や学校の活動に励み、将来を担う立派な社会人になることを願ってである。平成26年度は、この事業を、次のとおり行った。

### ア) 奨学生募集

平成26年3月に、「児童養護施設代表との話し合い」を行ない、平成26年度の奨学生応募内容を説明し、奨学生申請書ほか応募に必要な書類を配付した。

5月19日に応募を締め切り、84人の応募があった。

### イ) 奨学生選考

6月4日、当法人事務局で、奨学金選考委員会を開催し、選考委員は応募者全員の申請書類を精査し、協議の結果、応募者全員を当法人の奨学生として相応しいと認め、理事会に推薦することを決めた。

### ウ) 奨学生認定

6月9日に開催した「平成26年度第2回理事会」は、奨学生応募者全員を当法人奨学生として承認した。

奨学生になった学生の、学校種別(①)及び学年別(②)、は次のとおり。

①普通科 60人、高等養護学校 24人、

②1学年(新規)36人、2学年25人(継続)、3学年 23人(継続)

### エ) 奨学生認定式・奨学金授与式開催

6月21日、札幌サンプラザで、平成26年度に初めて奨学生に認定された、札幌市内及び北広島市にある児童養護施設の学生を対象に、「奨学生認定式・奨学金授与式」を開催した。奨学生28人及び当法人役員と児童養護施設代表が出席し、会長訓示の後、奨学生一人ずつに認定書を交付し、第一期奨学金を給与した。櫻ヶ丘学園は、遠隔地(仁木町銀山)にあるため、別にこの事業を開催した。7月19日、当法人の役員が同施設を訪問し、奨学生全員(19人)に、認定書を交付し、第一期奨学金を給与した。

オ) 奨学生の辞退

奨学生が児童養護施設から退所等の理由により、次の奨学生辞退があった。

8月1人、11月4人、12月1人、 (合計 6人)

カ) 奨学金給与

奨学金(年間一人4万5千円)を、三期に分割し、奨学生に給与した。

給与した期日等は次のとおり。

- ① 第一期給与 6月21日(28人)  
6月27日(8人)、28日(29人)  
7月19日(19人)
- ② 第二期給与 8月29日(10人)、30日(73人)
- ③ 第三期給与 1月30日(10人)、31日(68人)

給与した延人数 245人 給与総額 367万5千円

## 収1 前売券販売

### 福祉協賛札幌夏祭り大通ビアガーデンの前売券販売活動

この法人への支援をお願いするため、この事業を行なっている。平成26年度は、6月1日から7月20日まで前売券を販売、併せて当法人の趣意書を配布をした。

札幌市社会福祉協議会を通じ、アサヒビール株式会社より、収益金の一部300万円を寄附金として受けた(平成27年3月26日)

(参考)

全事業の活動延人数と活動延時間(支部活動報告より)

公益事業	1,152人	4,637時間
収益事業	100人	292.5時間